



きょう かい 教誨あれこれ

全国教誨師連盟広報誌

第7号

令和3年7月発行

公益財団法人 全国教誨師連盟
東京都中野区新井3-37-2

教誨師(きょうかいし)は、
刑務所などに収容されている人との対話を続けています。

令和4年に 近代宗教教誨150周年 を迎えます。

愛光女子学園での教誨

気付きの教誨

愛光女子学園は、関東・甲信越及び静岡の各家庭裁判所で少年院送致の決定を受けた12歳(小学生は除く)以上23歳未満の女子少年を収容し、非行から立ち直り健全な社会人になるよう、矯正教育を行う国の施設です。

平成27年、新少年院法の施行に伴い矯正教育課程は、1. 短期義務教育課程、2. 短期社会適応課程、3. 義務教育課程、4. 社会適応課程、5. 支援教育課程の5つに改編され指導が行われています。

平成元年より愛光女子学園に教誨師としてご縁をいただき、年中行事(花まつり、春・秋彼岸法要、盆法要)を行い、女子少年(生徒)達の前でお話しさせていただいております。また、学園の行事、学習発表会、運動会、卒業証書授与式に出席させていただいております。

毎回教誨の日は緊張します。「何について話をしようか」、「どのように進めていこうか」と、いつも悩み自問自答しながら学園に向かいます。生徒達の前に立ち「こんにちは、よろしくお願ひします」と大きな声で挨拶を受けると、「なぜこの子達が・・・」いつもその疑問から始まります。

講話では言葉を簡略に専門用語は使わずに、ユーモアを交えてわかりやすく、仏教の教えを基本として1時間話をします。1時間は生徒にとって大変長い時間です。それでも、生徒達は姿勢を正し真剣に話を聞いてくれます。施設の職員の先生方の日々の生活指導のお陰です。

人は、生まれながらに悪い子供はいません。子供達を取り巻く社会環境・人間関係・学校・家庭問題等が、子供達の生活を変えて行きます。一言で言えば悪い大人社会です。大人に不信感を持っている生徒達とどう向き合うのか、どのように信頼関係を築いて行くのか。私自身は生徒との約束を守り、同じ

く施設との約束を守ることを心掛けています。それは教誨の日を必ず守るということです。生徒達との見えない約束です。会うたびに少しずつ生徒達の表情が変わっていきます。学園での生活が生徒の自信になり、希望が見えたとき笑顔になります。



喜代多教誨師

自分自身が自らを省みて自分を見つめ直すこと、本当の自分自身に会えるかが、人生の課題であると思います。素直になれない自分、飾る自分、強がる自分、弱い自分、苦しい自分、やさしい自分、甘えたい自分、どれも自分の中の感情です。生徒達は「変わらなくちゃならない自分」に気づき、反省し変わろうと努力をしています。

まだ教誨師になりたての頃に「教誨師は種をまく以外にない。芽を出し、花を咲かせるのは本人であるから」と教えをいただきました。本人が気づき本当の自分に会うために、今までの自分と向き合わなければなりません。

現在コロナ禍で不自由な日々を過ごし、普段の生活がままならない時だからこそ、あたりまえのことは一つもなかったと気付かせていただくことであります。生徒達が花を咲かせられるよう、初心にかえって種をまきつづけたしたいと思います。

感謝できる日々、気付きのために・・・

(浄土真宗本願寺派 愛光女子学園教誨師

喜代多 證顕)

被収容者の生活について【食事】

府中刑務所は、犯罪傾向の進んでいる日本人男性と、アメリカ合衆国軍関係者以外の外国人男性を収容する日本最大級の刑事施設です。

被収容者の食事については、一人一日当たりの給与熱量や標準栄養量といった基本的な事項が、法務大臣訓令等で定められています。被収容者にはこの訓令等を遵守しつつ、限られた予算の中で家庭的でおいしくバランスの取れた食事を給与することを心掛けています。

毎日の献立は、職員である管理栄養士が、給与熱量や標準栄養量を満たし、且つ使用する食材、味付け、色合いにも配慮しながら作成しています。また、文化や宗教上、アレルギーや持病などから、通常の献立では食べられない被収容者もいるので、それぞれに対応した献立を作成しています。

例えば、通常の献立が「とんかつ」の場合、ベジタリアンの被収容者や高血圧等の持病があり、治療が必要な被収容者には「野菜コロッケ」、イスラム教徒で豚肉を食べられない被収容者には「チキンカツ」、小麦アレルギーの被収容者には「オムレツ」といった具合に献立を変更しています。イスラム教のラマダン月には、断食を希望する被収容者用の献立も作成しています。

そのほか、被収容者に食べる楽しみをより感じてもらえるように、毎月1回日本各地のソウルフードを模した献立を取り入れたり、日本でラグビーワー

ルドカップが開催された際には、日本と対戦する国の料理を模した献立を取り入れたりしています。これら作成した献立は、毎月1回の幹部職員を交えた会議において決定しています（会議では、おおむね1か月分の献立を決定しています。）。

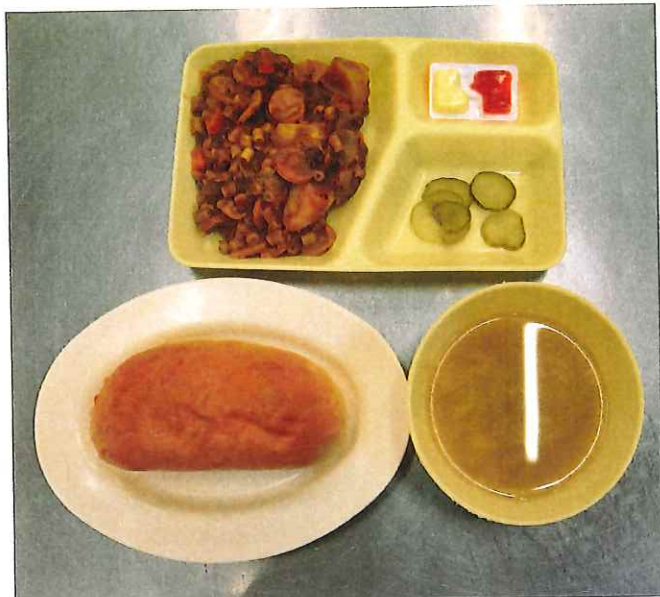
この献立を作成する上で、最も参考にしているのが、毎年1回、被収容者全員を対象に行っている食事に関する「嗜好調査」の結果です。調査項目には、食事の量・味の濃さ、肉料理・魚料理の回数に関する項目や、好きな献立・嫌いな献立などの項目もあり、被収容者が現状の献立についてどのように感じ、何を求めているのか、とても参考になります。被収容者は、私たちがのようにスーパーやコンビニに行ってお菓子を買ったり、おなかのすいたからといって自由に間食したりすることができませんから、傾向としては、各年代とも肉を使ったボリュームのある献立、甘味の強い献立が好まれています。

令和2年度に行った調査の結果では、肉を使ったボリュームのある「唐揚げソース」、甘味の強い「さつま芋グラッセ」と「チョコチップ入りパン」が、好きな献立の上位3位に入りました（ちなみに、嫌いな献立の上位3位は、いずれも肉を使っていない「高野豆腐煮」、「車麩卵とじ煮」、「八宝菜」でした。）。

被収容者の主食は、米麦食が基本ですが、パンや麺類も給与しています。通常の献立ではおおむね、パンは週に4回、麺類は週に1回ですが、パンを主食とする国の被収容者には、希望すれば週3回の米麦食を除きパンを給与しています。パンは、多くの施設では外部の業者から購入していますが、府中刑務所では所内で製造しています。被収容者に給与するパンは、いわゆるプレーンのコッペパンですが、月に1回程度レーズンやチョコチップなどを入れたコッペパンや、黒糖や紅茶などのフレーバーを練りこんだコッペパンを給与しています。余談ですが、プレーンとレーズン入りのコッペパンについては、府中



府中刑務所 庁舎



夕食 パン食 (マカロニハヤシ煮・コンソメスープ)



夕食 米食 (ひき肉里芋煮・ねぎ汁)

刑務所文化祭の会場で、来場者への販売も行っています。

先ほど被収容者は、スーパーやコンビニに行ってお菓子を買うことはできないと述べましたが、府中刑務所では、年に何回かお菓子や清涼飲料などの嗜好品を飲食できる機会があります。国民の祝日、毎月実施される誕生会（該当者に限ります。）、運動会、クリスマス、節分の日などがその日に該当します。

どのような嗜好品を給与するかは、管理栄養士が嗜好品を選択し、献立と同じ会議において決定しています。選択に当たっては、宗教上・ベジタリアン・アレルギー・高齢者などにも配慮しており、肉類・魚介類・ピーナッツを使用していないもの、そしゃくしづらくないものなどといった条件を満たしているものを選択しています。また、金額（矯正局長等の通達で一人当たりの予算が定められています。）は妥当か、季節に合った商品にも配慮しています。



文化祭 パン売り場

昨年度は行事用特別菜の支給は年3回を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、運動会が中止となり被収容者の楽しみが一つ減ってしまったので、クリスマスに多少豪華ではありますが、苺のショートケーキ（2個入）と500mlペットボトルのミルクティー1本を給与しました（風の便りで被収容者が大変喜んでいと聞き及んでいます。）。

その他には、優遇措置の区分に応じて、月に1回ないし4回、嗜好品を飲食する機会があります。刑事施設では、被収容者に改善更生の意欲を喚起させるべく、一定期間ごとの受刑態度を評価し、それに応じて優遇措置を講じており、嗜好品の購入はその一環です。給与する嗜好品は、処遇部及び教育部において選択しています。作業や各種指導への取組状況など受刑態度が良好であると認められ、5段階のうちの上位3段階の区分に指定された被収容者、端的に言えば、改善更生に向けて一生懸命頑張っている被収容者のみが作業報奨金等を使用して購入し、飲食ができるものです。

以上のように、府中刑務所では被収容者の食事について、様々な取組を行っています。食事は時に人の心を豊かにし、幸せを与えてくれるものです。被収容者が行う作業や矯正教育に与える影響も大きいと思います。再犯防止がより求められている昨今、食事が被収容者の社会復帰の一助となれるよう、今後も家庭的でおいしい、バランスの取れた食事の提供を目指して努力していききたいと思います。

※この原稿は令和3年6月に府中刑務所 管理栄養士 三井圭介氏から頂きました。

管区通信員だより

「慈光の塔」について

仙台管区

青森刑務所から車で10分、青森市三内霊園の一角に慈光の塔（納骨塔）があります。

碑文には「この慈光の塔は青森刑務所で服役中に病死し、遺体を引き取る親類縁者のない者の遺骨を納める塔である。昭和33年秋これらの薄幸の者を哀れと思い世話人会の人々を中心として広く青森県内有縁の方2000余名の深い愛情とご協力により建設されたものである」（抜粋）とあります。

昭和33年、所長として着任された三東春市氏は慰霊のことば（墓石内の碑文）の中で「不幸にして病魔に侵され万斛の涙を呑んで不帰の客となった者数多く 合葬祀として淋しく佃地市内荒川字野木の一隅に埋葬せられ 或いは土葬のまま仮埋葬され親戚

旧知よりも全く顧みられず 一枝の花は勿論香木すら手向けるものなく寂しく無縁佛として眠っていたのであります 私はこの現状を見るに忍びず速やかに之等不遇の霊を慰めるために新たに納骨塔建立を発願したところ 幸いに青森県下有縁各位の限りない温情と積極的協力を得 更に青森市長よりは三内霊園の提供を受け 本日（昭和33年9月23日）その建立をみるに至ったことは洵に感謝に堪えません」と思いを綴っています。

昭和33・34年の2カ年にわたり旧墓地を発掘、全部火葬のうえ、473体納骨合葬したといわれています。

建立して60年余が経ようとする慈光の塔も老朽化に起因したものとみられる亀裂、剥落等破損が数カ所生じ修復を余儀なくされ、平成29年には青森県教誨師会において修繕工事が行われました。

慰霊祭は、例年10月頃所長はじめ施設職員参列のもと、当教誨師会の教誨師により、しめやかに営まれています。

3つの絆である血縁、地縁、社縁が失われている社会といわれて久しいですが、縁によって生き生かされている私たちです。今、慈光の塔を拝し、改めて有無両縁 平等利益と念じるものであります。

（浄土宗 青森刑務所教誨師 大屋 俊考）



慈光の塔

「笹だんごの会」について

東京管区

『笹だんご』に広告を出してもらえませんか？ とお願いいたしますと、お寺さんが菓子屋の宣伝ですか？ と、訊かれます。いや、実は刑務所に収容されている受刑者のためなんです。と、話しますと多くの方々が話に乗ってくださいます。

新潟名物笹だんごは、縛っている菅を切って、笹の皮を剥ぎ、草餅に包まれた小豆餡を食べると美味しいように、どんな人でも腹を割って話すと、必ずわかりあえる、との意味合いで『笹だんご』と名付けました。

昭和63年に第33回東京矯正管区教誨師研修新

潟大会が行われることとなりました。当時は大会を引き受けた県の教誨師会は、その費用の捻出に大変苦労をしていましたが、その時の大会事務局長、曹洞宗の田宮黎友先生は、広報紙を発行し、そこに広告を掲載して、その広告料を大会費用の一部に充てることを考えられました。そのお陰により研修新潟大会を無事に乗り切ることができました。

その後も、広告を掲載した広報紙『笹だんご』の発行は継続し、平成7年には、広告主の方々を中心に「笹だんご協力者の会」が結成され、新潟県教誨師会の後援会として、大きな支援の輪が広がっています。

管区通信員だより

新潟県教誨師会広報紙『笹だんご』は、今年で34号を刊行する運びとなっています。最初の号より、新潟県における行刑施設の現状や、被収容者の動静、



広報紙『笹だんご』

教誨師会の活動・教誨師の自己紹介や、教誨活動に臨む心構えなど、様々な活動を紹介し、多くの人々に教誨活動に対する理解を深めることを目的とした内容となっています。

他県の教誨師会が発行されている情報紙等と大きく異なるところは、広告の掲載をすることによって得られる広告料であると思います。これが我々の活動の大きな資金源となり、様々な活動に対する資本があることから、活動の幅が広がり、受刑者にも大きな恩恵を与えることができるものと考えます。このような教誨活動の土台を支える活動を作り上げることも、大切と思っています。

(法華宗陣門流 新潟刑務所教誨師 小林 明雄)

コロナ禍の中でも、温かなクリスマス

高松管区

毎年、四国少年院教誨師会では収容されている少年達にクリスマス・ケーキをプレゼントしています。夕食時に提供されます。

クリスマスと言えば、クリスマスケーキと「きよしこの夜」等の賛美歌です。しかし、コロナ禍では歌えません。また、善通寺市内で活動しておられる合唱団を迎えてのにぎやかで楽しい時も持てませんでした。

そこで一計を案じました。聖書のお話をした後、第2部として3つの賛美歌を紹介することにいたしました。

第2曲目として「あらのはてに」の紹介をした時のことです。この曲は意外に多くの方がご存知です。それは、昔「ドリフターズ」が、毎年クリスマス前になると、教会の聖歌隊のような服装をして、この賛美歌をおもしろおかしく歌っていたからです。ただ、少年達は、まだ生まれていないので知らないと思っていました。そこで、昨年3月にコロナ感染のため他界された志村けんさんが「ドリフターズ」のメンバーであることをお話しすると、「知ってる、知ってる」と目を輝かせました。後ほど、篤志面接委員として少年と面接した時、今はユーチューブで見ることができ、志村けんさんのことも「ドリフターズ」も



加藤教誨師

知っていると言いました。

志村けんさんの名前を出した途端、目の輝きが増したことから、影響力の大きさに驚きました。志村けんさんと共に、コロナ禍の中で一計を案じたクリスマスですが、このひと時が少年達の心に残り、更生の一助となればと願っています。

最後になりましたが、このように「コロナ禍の中でも、温かなクリスマス」の時を持てたのは、ひとえに四国少年院職員の皆様による行き届いた心よりのご配慮の賜物であることを感謝し、お礼申し上げます。

(日本キリスト改革派 四国少年院教誨師

加藤 親平)

管区通信員だより

鹿児島刑務所新任教誨師

福岡管区

鹿児島市街地から高速を車で北へ向い約1時間あまり行くと、霧島山麓の山間、お茶畑が広がるのどかな自然の中に鹿児島刑務所は位置しています。

私はこの程、2020年(令和2年)より鹿児島刑務所において初の女性教誨師として就任させていただきました。

生憎、この度の新型コロナウイルス感染症拡大防止のため教誨師としての活動もほぼできない状態が続いています。今年に入り2月16日、大先輩である寺本是精先生によるグループ教誨の際に教誨師として初めて鹿児島刑務所を訪れ、グループ教誨に参加見学させていただきました。グループ教誨は普段



東教誨師

より少人数の受刑者3名の受講で行われました。グループ教誨を受講する受刑者は社会復帰への志が高い受刑者でもあると思いますが、各自の勤行の姿勢と法話を真剣に聴聞する姿に驚きすら覚え、ここにいる受刑者たちが犯罪者である前に「人」であるということを再確認させられました。

鹿児島刑務所では受刑者たちが改善更生を目指し気候を生かした製茶、木工家具等の制作、金属加工製品の制作を行っています。

私の生家は真宗大谷派の寺で祖父と父ともに教誨師を務めてきました。そのため、受刑者が制作した作品の即売会の際に購入した、家具や工芸作品に囲まれて育ったと言っても過言ではありません。幼いながら丁寧に作られた工芸品の素晴らしさや美しさに感銘したことを覚えています。

犯罪や出所者の再犯率は人間社会を構成する個人個人の価値観や誤った常識が変わらない限り、社会自体が変わっていかない限り、減らないとも思いますが、私は経験の浅い新任教誨師として先人方また諸先輩方のアドバイスをいただきながら受刑者と向き合い、共に人として生まれてきた縁の深さと命の尊さに出逢っていくことができればと思います。

(真宗大谷派 鹿児島刑務所教誨師 東 朋子)

連盟とびっくす

第64回名古屋矯正管区教誨師研修大会を開催

去る、令和2年12月9日ホテル名古屋ガーデンパレスにおいて「第64回名古屋矯正管区教誨師研修大会」(近代宗教教誨150周年記念)が開催されました。

令和2年初頭より新型コロナウイルス感染症が蔓延し緊急事態宣言が発出され収束の目途が立たない折、各管区の大会が中止と決まっていく中で近代宗教教誨発祥の地として、何かを発信できないかと感

染対策に考慮しながら、会場のホテル、名古屋管区、全国教誨師連盟と対策について協議をして大会運営を進めてまいりました。今大会は、開催地域の感染状況や他県からの移動の制限などの様々な問題を考慮し、直前に中止も視野に入れての開催になりました。

大会テーマ「安らぎの心を求めて」においては、全国教誨師連盟の教誨活動紹介DVD『心のやすらぎを

もとめて』の制作に携わっていただいた武蔵野美術大学の田田晃先生を始め、全国教誨師連盟の中川理事長や事務局の皆様、制作委員の川上教誨師からDVD作成に到る過程や制作時の課題などを乗り越えて出来上がるまでのお話がありました。そして、各施設における活用などの報告や協議があり、今後の活用方法が話し合われました。

サブテーマの「新しい生活様式に合わせた教誨、研修会等の開催方法について」では、事前に管内の教誨師の先生にアンケートをとり、それをもとに教誨や研修会のあり方が討論されました。

そして、コロナ禍での各施設における教誨の現状なども教誨師の先生により報告されました。

講師の大田先生から大学でのオンライン授業など、リモートによるメリットやデメリットの話があり、立場により感じ方に相違があるとも言われました。



研修大会風景

刻々と変異するウイルスに、私たちはどう向かい合わなければならないか。また、新しい生活様式に順応する事で、各施設での教誨や各研修会が開催できるように智慧を絞り、自己の研鑽を重ねることが大切と思いました。

(臨済宗妙心寺派 名古屋刑務所教誨師 大野 浩宗)

国連犯罪防止刑事司法会議（京都 kongress）について

京都 kongress は5年に一度開催される犯罪防止・刑事司法分野における国連最大の国際会議で、日本での開催は50年ぶりです。犯罪防止・刑事司法分野の専門家がその知見を共有し、より安全な世界を目指して協働することを目的としています。当初は令和2年4月に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により延期され、令和3年3月7日から6日間の日程で、京都国際会議場で開催されました。

この度は、全国教誨師連盟も関連団体として展示ブースを設け参加しました。開会式には、大谷光淳総裁、中川文隆理事長、竹岡郁雄副理事長が出席し、その後、総裁は理事長・副理事長の案内で展示ブースを視察されました。

当初、西本願寺でのレセプションも計画しましたが、断念せざるを得ませんでした。しかし展示ブースにおいては、教誨紹介DVDの放映や英語版パンフレットの配布等を行い、我が国では1000年以上前から宗教教誨が行われてきたことや、全国教誨

師連盟は様々な教宗派が力を合わせて運営している世界にも類を見ないボランティア団体であることを発信しました。

また、読売新聞には「教誨師 受刑者導く『どんな人生もやり直せる』京都 kongress で活動紹介」と題して大きく掲載され、有意義な広報活動を行うことができました。



全国教誨師連盟の展示ブース

編集後記

最初に、感染症拡大防止にご尽力されている多くの皆さまに心より感謝いたします。

今年度は被収容者の「食」をテーマにしました。来年度は「衣と住」をテーマにする予定です。皆さまの健康と安全を祈念いたします。
(事務局)

改善指導にたずさわって

刑務所などの刑事施設では、受刑者に対して刑務作業だけではなく、様々な教育的処遇が行われています。例えば入所時や釈放前の心得の指導、十分に学校教育を受ける機会がなかった人への教科指導や、それぞれの犯罪傾向に応じた改善指導などです。これらは罪の意識を自覚し、社会の中でもう一度歩み出すための知識や生活態度を学ぶことを目的としています。

教誨師は本来、被収容者の希望に応じて宗教的な行事や講話などの「宗教教誨」を行うのが役目です。私が所属する府中刑務所では曹洞宗教誨師が4名おり、交替で坐禅や個人教誨などの「宗教教誨」を勤めていますが、その他に、これらの教育にも携わる機会もあります。

ここでは府中刑務所における「被害者の視点を取り入れた教育」についてご紹介します。

社会で起きる様々な犯罪一些細なトラブルが傷害致死に発展した事件、飲酒運転事故、DV、児童虐待などを再現した映像DVDを視聴し、その内容に基づき対象受刑者数名と施設職員、そして教誨師を交え、専門知識を有する篤志面接委員の先生を中心にしてグループワークで話し合います。

この加害者はなぜ犯罪を起こすに至ったのか？

自分が当事者だとしたら、どのような行動をするか？

被害者の心情は？ 加害者家族のおかれた立場は？

償いとは？ 責任をとるとは？

後悔と反省の違いとは？

などなど、テーマは話の流れにより毎回多岐にわたります。

初めは自分の意見を述べるのが苦手そうな人もありますが、回を重ねるうちに互いに相手を理解し、気張らずに話せるようになります。

教誨師として、このような場では宗教の教義を説くのではなく「こんな見方もできるのでは？」とか「仏教ではこのような言葉がありますよ」など、考え方の選択肢を増やし、視野を広げる手助けをするつもりで参加しています。

参加者からは、「今まで考えたこともないことを話

し合った。これほど深く自身のことを考えたことはなかった」「最初は人の話を聞いたくらいで自分は変わらないと思っていたが、今ではどうして自分がこんな事件を起こしてしまったのか、と考えるようになった」「カッとなった時も思い留まることができるようになった自分に驚いている」などの感想を得ることがあります。自分の意見に耳を貸してもらえず、本当の気持ちを表現することができなかったこと、その結果として自分自身と真剣に向き合う機会に恵まれなかったことを示しているのではないのでしょうか。

この教育の目的は「被害者の視点」を学び、罪の重大さへの認識を促すことですが、同時に話し合いを通じて身近にいる他人の意見に耳を傾け、自分の考えを整理して深めながら、相手を理解し思いやる心を育む機会にもなります。そして、その心が被害者の立場に目を向ける原点に繋がるはずです。

また、これをきっかけにして個人教誨への参加につながる場合もあり、そこではより一層自分自身との対話を深める機会になります。さらに、彼らの出所時の面接に我々教誨師が立ち会い、新たな第一歩への応援の言葉かけをすることもあります。

刑務所は社会の「負」の部分の縮図といわれます。しかし、だからこそ互いに尊重し合うことによって自分のいのちの価値に気付くことが大切です。このようなグループワークも広い意味では「教誨」です。

彼らが少しでも力強く歩むことができるように、今後も暗中模索しながら励んでまいります。

(曹洞宗 府中刑務所教誨師 鬼頭 広安)



鬼頭教誨師

全国教誨師連盟は皆さまからのご寄付により運営されております

犯罪者や非行少年等の改善と更生のために活動している教誨師にご理解とご支援をお願いします。

寄附金受付口座（郵便振替）00130-4-46544

公益財団法人 全国教誨師連盟 TEL 03(3389)7411